

キマワリ



澄川基地の薪積の横にブルーシートで覆って 1m ほどに玉切りして保管していたミズナラ材を炭焼用の薪割りをするについて、さらに 3 分割する作業をしていました。2012 年 7 月 9 日。シートを外すときから目についていましたが、材の中にいるわキマワリたちがウロチョロしまくりました。この基地まわりには、薪材や廃材を集積していますから、腐木材の好きなキマワリがうろつくのは当然なのです。この材は伐後 2~3 年と記憶して

いますが、シートの中で蒸されたのでしょうかね、キマワリが集まるほどに腐蝕がすすんでいました。焼いても良い炭になるかどうか心配です。

キマワリは甲虫でゴミムシダマシ科に分類されています。体長は 15~18 mm、分布は日本全土、ゴミムシとゴミムシダマシとの違いはと問われると外見は区別しにくいからこそダマシと嫌味な名前がつけられたのですが、食性はゴミムシたちは肉食性で他の生きた虫たちを狩って食べますが、ダマシたちは雑食で狩は好まず、肉食でもせいぜい干物のようなものを食べるだけのようです。キマワリはその中でも腐蝕した木材を主食とする平和主義者なのです。だからでしょうか逃げ足も速くもなく、おっとりしていて、人間に何らの害も及ぼしません。昆虫少年だった頃も、いち早く標本箱に入っていたと記憶しています。



この日の作業は森林総研でのエゾヤマザクラの種採り、基地での看板づくり、作業台作り、炭材づくりと分業となりました。一番の力仕事は斧での薪割りで、湯澤さんが独りで頑張りました。「ガキの頃からやっている」とのことで、玉切と同じくらいのペースでこなします。当協会のメンバーはおしなべて薪割り上手です。たしかにガキの頃、家事手伝いの一部としてこなした経験がある年代ですからごもつともですが、明日は筋肉痛になるだろうなー、と心配したことでした。

